

出題分析		
試験時間 80 分	配点 150 点	大問数 4 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]	
<p>【概評】</p> <p>大問は昨年までの 3 題から 4 題構成となったが、全体の設問数は昨年とほぼ同じで、論述問題も昨年と同じ 10 問であった。出題範囲は例年通り近世以降であり、また歴史総合を背景とした世界史との問題の融合も見られ、問題 I のリード文および問 1、問題 IV が世界史と共通であった。</p> <p>純粋な日本史の設問でやや細かい知識を要するものが見られたほか、世界史の知識を必要とする論述問題も出題されたが、全体的には標準的なものが多く、昨年と比べて大きな難易度変化はなかったと言える。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	関税の歴史	<p>問 2. 資料 c は「エンゲレス」がオランダの「敵国」などとあるためイギリスを指すと考え、ここからフェートン号事件に関するものと捉えたい。また、年表中のクナシリ・メナシの蜂起の時期が細かい知識であることから、資料 a (ラクスマン来航に関するもの)の時期は 4 か 5 で迷うだろう。なお、資料 b は享保の改革での漢訳洋書の輸入緩和に関するものである。問 3. 「尊王攘夷派」については四国艦隊下関砲撃事件と長州藩との関係だとわかる一方、「朝廷の対外方針」についてはやや書きにくい。ここでは、列国が朝廷に圧力をかけて条約の勅許を獲得したことを述べたい。</p> <p>問 4. アは上海、イは奉天である。今回のような問題に対応するために、近代の東アジアで起きた事件はその発生地を地図でも確認しておこう。</p>	標準

設問別講評			
II	大内兵衛の生涯	<p>論述問題で世界史の知識を要するものが出題され、歴史総合も出題範囲とは言え、日本史選択の受験生にはやや取り組みにくい大問であった。問 6. 明治期に成立した地方制度の仕組みについて細かい知識が問われた。問 9①. 円相場の上昇からは変動相場制への移行, 安定からは固定相場制への復活を読み取る。ただ, 1973 年に初めて変動相場制へ移行したと認識していると, 前者は書きにくい。問 13. 東西陣営の共同防衛組織がそれぞれ北大西洋条約機構 (NATO) とワルシャワ条約機構であることはわかると思うが, 「西ドイツの動向」として西ドイツの再軍備や NATO 加盟を想起するのは難しい。</p>	やや難
III	中曽根康弘の生涯	<p>問 14. 「問屋制家内工業＝自家, 工場制手工業＝工場」という生産拠点の違いを主軸に論述する。近世の手工業の生産形態は, その推移と各特徴を押さえておきたい。問 16. カイロ・ヤルタ・ポツダムでの各会談は大学入試で頻出だが, 慶大受験生であれば今回のように, 取り決められた宣言及び協定の内容や史料, 地図上の位置まで押さえておこう。問 19. グラフでは全国市街地価格指数が区分 2 の最初をピークに下がっており, ここから 1990 年代初めのバブル崩壊を想起する。b の時期は 2 と 3 で迷うが, c の時期が 55 年体制の崩壊や阪神・淡路大震災の発生などを想起して 2 だと特定できるため, b は 3 となる。</p>	標準

設問別講評			
IV	慶應みらい君の探究型学習	昨年と同様に、世界史と内容が共通の論述問題 2 つからなり、全体としてグラフや史料の読み取りが重視されている。問 21. グラフから原料品の輸入と全製品の輸入・輸出について読み取り、それと日本の工業化を結びつける。その際、工業化進展の過程として産業革命による軽工業の発展及び第一次世界大戦以降の重工業の発展に触れてもよい。問 22. グラフからは 1932 年に入って円安が進行していることが読み取れ、また史料 b からもうかがえるように、円安によって綿織物輸出が増加している。これらの点と、円安進行のきっかけとして高橋財政の内容を答案に盛り込んでいく。	標準

合格のための学習法

慶應義塾大学経済学部の日本史については、論述問題は文章を手際よくまとめられるように、教科書を使って学習することが効果的である。年代配列問題の対策は、日頃から重要事項の整理として年表を使った丁寧な学習をしたい。出来事の流れと合わせて、できれば西暦年もある程度覚えておく方が直接的な対策になるだろう。史料は、史料集で代表的な題材を確認しつつ、要点を把握する訓練をしたい。また、グラフや地図は初見のものも出題されるが、教科書に掲載のものを中心に確認しておこう。特に地図は、日本史に関わる国外地域の位置をよく確認しておいた方がよいだろう。歴史総合分野が出題範囲に含まれるようになったことで、既に経済学部に特徴的であった「世界史の中の日本」という意識のもとでの出題が明確になっており、世界史との関連に注意して学習することが必要である。